

大規模な河道閉塞（天然ダム）の危機管理に関する検討委員会 （第2回）

平成20年11月4日（火）
15：30～17：00
栗原市役所2階講堂

議 事 次 第

1 開 会

2 議 事

（1）大規模な河道閉塞（天然ダム）対策を行う上での課題について

（2）その他

3 閉 会

大規模な河道閉塞(天然ダム)の危機管理に関する検討委員会 設立趣意書

平成 20 年岩手・宮城内陸地震では、栗駒山東南麓を中心として河道閉塞(天然ダム)が 15 箇所発生した。国土交通省は岩手・宮城両県知事と岩手県一関市長及び宮城県栗原市長の要請を受け、それまで直轄砂防事業を実施していない区域において直轄砂防災害関連緊急事業による対策を実施したところである。

また、平成 16 年の新潟県中越地震における旧山古志村の芋川流域など、国内ではこれまで数多くの大規模な河道閉塞(天然ダム)が形成されており、これらの中には決壊により地域に壊滅的な被害を生じた例も少なくない。

こうした状況に鑑み、今後日本国内において大規模な河道閉塞(天然ダム)が複数形成される事態に備え、危機管理を行うために必要な事項を検討し、提言を得ることを目的として、学識者・専門家等からなる検討委員会を設置するものである。

大規模な河道閉塞(天然ダム)の危機管理に関する検討委員会

検討事項

- I 近年発生した大規模河道閉塞とその対応
 - II 天然ダムの調査
 - II-1 調査
(位置・大きさ・湛水状況などの特徴把握)
 - II-2 天然ダムの危険度
(天然ダム崩壊の可能性および下流への想定氾濫区域の把握等)
 - II-3 天然ダムの監視(モニタリング)
 - II-4 警戒避難
 - II-5 情報通信(通信の確保等)
 - III 対策工事
 - III-1 応急対策(工法決定と施工方法)
 - III-2 緊急対策(工法決定と施工方法)
 - III-3 復旧対策(工法決定と施工方法)
 - III-4 工事にあたっての安全管理
- 平時からの準備
- 1 危機管理のあり方
 - 2 必要な資機材の開発と保有
- その他必要事項

大規模な河道閉塞(天然ダム)の危機管理に関する検討委員会
委員等名簿

赤木伸弘 (社)建設電気技術協会 専務理事

石川芳治 東京農工大学大学院 環境資源共生科学部門 教授

坂口哲夫 (財)砂防フロンティア整備推進機構 総括研究員

志方俊之 帝京大学法学部教授(東京都参与)

茶山和博 建設無人化施工協会 技術顧問

水山高久 京都大学大学院 農学研究科 教授

【事務局】

国土交通省	大臣官房	技術調査課電気通信室
	総合政策局	建設施工企画課
	河川局 砂防部	砂防計画課・保全課